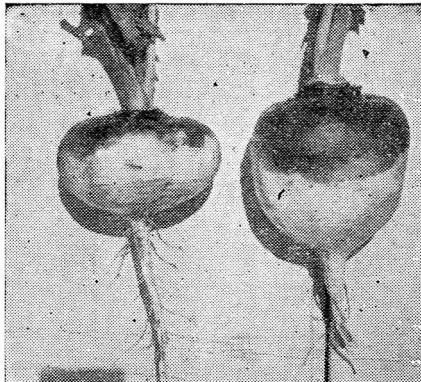


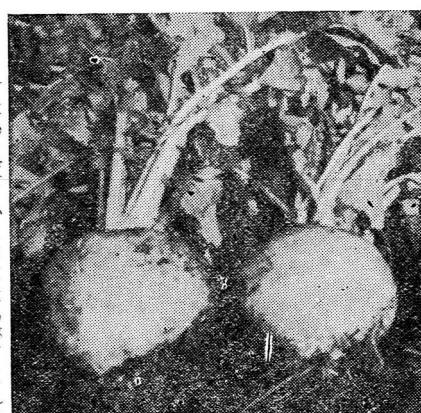
牛乳増産の鍵

多汁飼料の王 かぶを増産しよう

冬季間の多汁飼料として『かぶ』が重用されるのはその生育が極めて早く八〇日～九〇日という短期間で利用できる大きさになり収量も多く、且つ比較的土壤や気候を選ばず、寒暖いずれの地にもよく育ち、栽培検めて容易でありしかも貯蔵は簡単で、ビタミンの含量が多く牛乳の泌乳量を著しく増加する役を果しているからである。特に緑草のない冬期間の長いところでは、絶対なくしてはならないものである。弊社が自信と責任を以て推奨できる代表的品種を紹介しその栽培利用をお奨めしたい。



一 品種



1 雪印改良紫かぶ 北欧産のペーブルトップを基礎として多収で貯蔵力の大(肉質堅密で乾物量の多いもの)なるものの育成が改良の主眼として選抜淘汰をしたが、図に示すような円形厚肉のもの育成に成功したもので、地上部は濃紫色、地下部は純白、肉質は緻密、生長早く豐産である。

東北、北海道はもちろん、中部山岳地帯や暖地でも冬作を遅く時く地帯でも好評を博している。

2 下総かぶ 下総の御料牧場で多年改良されたものを弊社千葉農場で責任採種したもので、地下部は緑、地中部は白色で扁球形で根部巨大となり葉の収量も多く、暖地では格別貯蔵すること

なく春先まで随時収穫給与できるので暖地における飼料用かぶとして最優良のものである。

二 かぶの栽培と利用

暖地では馬鈴薯、西瓜、玉蜀黍、早掘り甘藷などの跡に播種する。とにかく生育期間の短いことと取量の大きな点を十分活用すべきである。寒地では七月中旬～八月中旬であるが、前述の如く

北部の寒冷地帯では春播とする方が成績がよい。播種期は大体暖地で八月中下旬～九月上旬、寒地は七月上旬～八月中旬であるが、前述の如く

面が凍るので畑にそのまま放置しておくと『かぶ』は凍つて腐敗するのであまり強い霜のこない内に収穫して茎葉を切りとり、窖または土中に貯蔵することが必要である。それで大根、人参、牛蒡の

ような根菜類は土に穴を掘つて埋め土をかけて貯蔵するのが普通であるが、かぶをこれと同じようになると春までにほとんど腐つてしまう。何故かと言うと根菜類は葉のつけ根の首のところが生きている埋藏中も呼吸をしているのであるが、その位置の温度が高すぎると、呼吸がはげくなりすぎてそこから腐り出してくるのである。ところが人参や大根は丈が高いので腐るほど呼吸作用が起らぬ。かぶの場合丈が低いので、深い穴に埋めこむと上側のものだけは涼しいが下積になつた『かぶ』は腐り易くなる。馬鈴薯等は休眠の関係もあつてある程度の下積にも堪える。そこで『かぶ』は地下に埋めることなく地表に積んで上をかけるか、浅い長い溝にあまり大きな山とせずならべ作物をかけやすく土をかけるとよい。覆土の厚さは四、五寸、七、八寸位とするも寒い地帯ほど厚くする。

一日の給与量は十貫前後を細断してあたえる。また鶏には半分に切つて喰食させる。暖地でも十分肥大しない中に冬に入ってしまう事になるので特に留意されたい。播種の方法は普通一・八～一・二尺の条播として、反当り三～四合の種子を播き本葉二枚の頃引して一本立とする。種子が小さい

大しない中に冬に入ってしまう事になるので特に留意されたい。播種の方法は普通一・八～一・二尺の条播として、反当り三～四合の種子を播き本葉二枚の頃引して一本立とする。種子が小さい大しない中に冬に入ってしまう事になるので特に留意されたい。播種の方法は普通一・八～一・二尺の条播として、反当り三～四合の種子を播き本葉二枚の頃引して一本立とする。種子が小さい

大しない中に冬に入ってしまう事になるので特に留意されたい。播種の方法は普通一・八～一・二尺の条播として、反当り三～四合の種子を播き本葉二枚の頃引して一本立とする。種子が小さい